

5 英語

(1) これまでの課題

ア 平成 22 年度

- ・ 1 学年 小学校での英語活動を確認し、すでに生じている個人差を少なくすることが課題である。そのため、英語を使ってコミュニケーションをとることの楽しみを感じることができる授業が必要である。
- ・ 2 学年 英語を楽しく学ぶ素地はほぼ身に付いている。細かいミスをなくし、英文を正確に表現させることが課題である。
- ・ 3 学年 昨年度までの個人差を解消していくことが最大の課題である。英語に対し学習意欲がなくなっている生徒にきめ細かく指導する。さらに、検定や受験などを踏まえ、総合的な英語の学力を身に付けさせる。

イ 平成 23 年度

- ・ 1 学年 音声中心の英語学習から文字を取り入れた理解・表現などの活動を丁寧に指導する。小学校での外国語活動の経験や学習意欲の個人差を考慮して、全員が意欲的に学習に取り組めるようにすることが第一の課題である。
- ・ 2 学年 英語に興味・関心をもち、意欲的に学習を続けている生徒が多く、現時点で必要な力が身に付いている生徒も多い。一方、英語が苦手になってしまっている生徒もいるので、基礎的な内容を復習しながら新しい単元に取り組んでいく工夫が必要である。
- ・ 3 学年 英語に対して学習意欲を失いがちになった生徒に基礎基本から分かりやすい授業を行う。基礎的な内容から発展的な内容まで総合的な生徒の学力を身に付けさせることが課題である。

(2) 指導目標

ア 平成 22 年度

- ・ 1 学年 英語に慣れ親しみ、基本的な英文を理解し、表現する力を養う。
- ・ 2 学年 語彙を増やし、まとまった英文を理解し、表現する力を養う。
- ・ 3 学年 語彙を増やし、ある程度長い英文を素早く理解し、適切に表現する力を養う。

イ 平成 23 年度

- ・ 1 学年 短い英文を理解したり、簡単な英語を使って自己表現したりする力を養う。
- ・ 2 学年 語彙を増やし、まとまった英文を理解し、表現する力を養う。
- ・ 3 学年 語彙を増やし、長文の内容を素早く理解したり自分の考えを豊かに表現したりする力を養う。

(3) 指導の重点

ア 平成 22 年度

- ・ 1 学年 書く力を伸ばすために数多くの単語を学び、「書くこと」の活動を多く取り入れる。
身近な場面設定で基礎的な表現を身に付けさせる。
- ・ 2 学年 自分の考えを豊富な語彙で表現できるようにする。
語彙をさらに増やし英作文で適切に用いることができるようにする。
まとまった文章を読んで内容を正しく理解する力を身に付けさせる。
- ・ 3 学年 「書くこと」の活動を多く取り入れ、既習の単語や文法を正しく用いながらまとまりのある文を英語で書く力を身に付けさせる。

長文読解に力を入れ、決められた時間の中で内容を素早く理解する練習を多く取り入れる。

イ 平成 23 年度

- ・ 1 学年 「読むこと・書くこと」の指導を丁寧に行う。
コミュニケーション活動を重視し、英語を使った言語活動を多く取り入れる。
- ・ 2 学年 自分の考えを豊富な語彙で表現できるようにする。
語彙をさらに増やし基本的な英語を用いて、身近な事柄を表現できるようにする。
まとまった文章を読んで内容を正しく理解する力を身に付けさせる。
- ・ 3 学年 自分の考えや意見を互いに伝え合う場面の工夫を行い、英語を運用する力を身に付ける。
長文読解に力を入れ、決められた時間の中で概要を理解できるようにする。

(4) 授業改善に向けての具体的な取り組み

ア 平成 22 年度

- ・ 1 学年 毎時間、歌や B I N G O を行い、語彙力を増やす。
単語テストやリスニング練習を行う。
英語で生徒同士が対話をする機会を多く取り入れる。
- ・ 2 学年 定期的に行う単語テスト、リスニング練習を継続する。
自分のことを英語で表現する機会を増やす。
英文を読んで理解する活動を取り入れる。
生徒が書いた英文をこまめに確認し、スペルや文法上の単純ミスなどをなくしていく。
- ・ 3 学年 学力向上支援講師と協力し、個々のレベルに合った学習を進められるような環境をつくる。
毎時間の授業に 4 技能の活動（単語テスト、長文読解練習、リスニング練習、ライティング練習等）をバランスよく取り入れる。そのなかで特に「書くこと」の活動を多くする。

イ 平成 23 年度

- ・ 1 学年 ノートづくりや単語テスト等で、英語を書くことを継続的に指導する。
学力向上支援講師と協力し、毎時間の授業に 4 技能の活動をバランスよく取り入れる。
- ・ 2 学年 定期的に行う単語テスト、リスニング練習を継続する。
ワークシートやワークブックを効果的に活用する。
英文を読んだり、聞いたりして理解する活動を取り入れる。
ノートまとめの作業を通して、各単元の基礎的な事項を確認させる。
- ・ 3 学年 毎時間の授業に 4 技能の活動（単語テスト、長文読解練習、リスニング練習、ライティング練習、スキット活動等）をバランスよく取り入れる。
特に「書くこと」の活動に意欲的に取り組めるように、具体的にポイントを取り入れたまとめのある文を作らせる。

(5) 平成 22 年度 授業評価から授業改善へ

ア 前年度の授業評価の結果からの課題

どの学年の生徒も概ね意欲的に授業を受けている。課題となっていた「書くこと」の活動を各学年で積極的に授業の中に位置付け、継続的に行っていることは成果として表れており、引き続き継続する。

また、今年度は、「言語活動の充実」に関する質問項目を新たに設けたが、日頃からコミュニケーション活動を活発に行っているため、生徒の授業評価も高い数値となっている。学年が上がるにつれて、授業内容

も難しくなるので、身近な場面設定を工夫し効果的に教材を提示して、生徒の理解度を更に深めていく。

イ 今年度の授業評価の結果分析と課題

- ・ 1 学年 授業を受ける姿勢・態度はよく、積極的に発言をする。また板書やプリントが分かりやすかったという意見が多かったので引き続き活用する。
授業の進み方が早いと感じている生徒がおり、場面設定を工夫する必要がある。
生徒が挙手する場面は多く設定しているが、均等に当たらないという意見があり、改善する。
- ・ 2 学年 「授業の仕方」では、どの項目も 9 割以上の生徒が 1 か 2 と答えている。授業内容の難易度が上がり、多少英語に対して苦手意識が出てきた生徒もいるが、授業の充実度は変わらないので、この授業スタイルを引き続き継続する。
「授業の受け方」の中の「発言したり質問したりしましたか。」の質問項目に関しては、他の項目に比べてやや低い値だったので、意識的に発言の機会を設けるなど場面設定を工夫する必要がある。
- ・ 3 学年 全体的に好結果であった。特に、昨年度より「発言したり質問したりしたか」という項目については改善されている。
「資料や教材等が効果的に使われていたか」という項目については昨年度より若干悪い結果となった。各単元の内容に適したよりよい教材づくりに努める。

ウ 授業改善の手だて

- ・ 1 学年 授業の自己評価カードを活用し、生徒の学習状況を把握する。
各活動がどのような力を付けるためのものかを明確にして、生徒自身にもそれを意識させて取り組ませる。
- ・ 2 学年 これまでの授業スタイルを今後も継続し、英語の 4 技能をバランスよく授業に取り入れ、生徒の技能を伸ばす。文法の難易度が増しても生徒が意欲的に取り組めるような「書くこと」の活動も増やす。
- ・ 3 学年 基本的な授業の流れは変えず、丁寧な授業を続けていく。より複雑な、難しい英文が出てくるので、復習しながら身に付けさせる教材を準備し、活用する。

(6) 平成 23 年度 授業評価から授業改善へ

ア 前年度の授業評価の結果からの課題

毎年英語科の課題となっていた「書くこと」に関して、各学年で計画的に授業に取り入れて成果が上がっている所以、引き続き継続している。また、今年度は「言語活動の充実」に関する質問項目を更に二つ増やしたが、コミュニケーション活動を活発に行うことは例年通りであり、生徒の授業評価もおおむねよい結果がでている。今年度も引き続き、身近な場面設定を工夫し、効果的に教材を提示することが課題となっている。

イ 今年度の授業評価の結果分析と課題

- ・ 1 学年 ほとんどの質問項目において、おおむね「あてはまる」「ややあてはまる」の回答を得ることができた。
他の項目と比較すると、「忘れ物」「発言・質問」について改善すべき点があることが明らかになった。
「授業の到達目標」をよりはっきり生徒に伝えるべきということも分かった。

- ・ 2 学年 ほとんどの質問項目において、おおむね「あてはまる」「ややあてはまる」の回答を得ることができた。
 「発言・質問」の項目は、「あてはまる」「ややあてはまる」の回答が他の質問項目と比較してやや低めの数字であった。
 「授業の進む速さ」については、丁寧に復習しながらの進度に満足している生徒がいる反面、現在の進む速さを遅く感じている生徒も一部いることが明らかになった。
- ・ 3 学年 「授業の仕方」においては、昨年度に引き続きどの項目も 9 割以上の生徒が肯定的である。多少英語に対する苦手意識が出てきても授業に対する姿勢は変わらず、好結果であった。
 「授業内容の理解度」に関しては、三年連続伸びており、文法が年々難易度を増しているにも関わらず、「分かりやすい授業」を目指している成果が見られた。
 「授業の到達目標」は、「Today's point」としてはっきりと明示しているので、生徒にとって、その時間に学習している内容が分かりやすかった。

3 授業改善の手だて

- ・ 1 学年 「忘れ物」に関しては、授業規律を確立するためにも、さらに徹底していかなければならない。こまめにチェックし、直接生徒に指導する。
 生徒の自主的な発言を促すよう、挙手を求める機会を多くする。また、生徒同士で会話や意見交換する場を設け、言語活動の機会を増やす。
 到達目標については、授業の流れを止めないよう配慮しながら、なるべく分かりやすく生徒に伝える。1 時間の授業の中で 1 つ到達目標を示せる活動を取り入れることを目標に授業を進める。
- ・ 2 学年 より発言しやすい授業の雰囲気作りや、発言しやすい発問の工夫をする。また、言語活動を重視した学習内容を増やすことで、発言の機会を増やしていく。
 授業の進む速さに関しては、個々の生徒の特性を配慮しつつ、学習内容によってはよりスピード感をもって進めていく。そのバランスを取りつつ指導内容を精選していく。
- ・ 3 学年 4 技能をバランスよく授業に取り入れ、生徒の技能を伸ばしながら、「生きた英語」を体得できるようにする。
 文法の難易度が増してくるので、長文読解や英作文の時間を定期的に取り入れ、各単元の内容に適した教材と場面を工夫する。

(7) 平成 22 年度 学力調査から授業改善へ

ア 学力調査の推移

・ 現 1 学年本校（全国平均）

観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
H23 年 1 月 学力調査	79.9%(72.1%)	77.4%(62.9%)	86.1%(79.0%)	87.0%(72.0%)

・ 現 2 学年本校（全国平均）

観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
H22 年 6 月 学力調査	79.9%(77.5%)	67.0%(51.9%)	85.2%(84.7%)	75.2%(65.0%)
H21 年 4 月 学力調査 *				

・現 3 学年本校（全国平均）

観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
H22 年 6 月 学力調査	73.1%(63.9%)	63.0%(45.6%)	76.7%(70.1%)	66.3%(54.1%)
H21 年 4 月 学力調査	76.1%(76.3%)	43.7%(36.8%)	51.1%(48.2%)	49.9%(44.7%)
H20 年 10 月 学力調査	62.9%(61.7%)	83.4%(76.0%)	81.3%(82.1%)	75.0%(71.3%)
H20 年 4 月 入学時学力調査 *				

イ 結果分析と考察・課題

- ・1 学年 すべての観点で、全国平均を大きく上回った。特に「表現の能力」については 14.5 ポイント、「知識・理解」では 15 ポイント上回っている。

問題の内容別にみると、リスニングで要点をとらえてメモする問題の正答率が期待正答率より下回っているのが、ポイントを絞って大事なことを聞き取る力を伸ばす工夫が必要である。

- ・2 学年 「関心」「表現」「理解」「知識」のすべての観点で、全国平均を上回った。特に「表現の能力」については、全国平均より 16 ポイント上回っており、自由英作文や並べ替えの作文が期待正答率を大きく上回った。日頃より「書くこと」の活動を意識的に授業に取り入れている結果である。

一年次より語彙力が少しずつ増しており、正しい英文を書けるような指導を継続していく。会話文や長文の読み取りも概ねできているのは、日常の単語テストの成果も含め、生徒が語彙を増やしていることもあり、今後も継続する。

- ・3 学年 すべての観点で、全国平均を大きく上回った。特に「表現の能力」については、全国平均より 17.4 ポイント上回っている。また、平成 21 年度の学力調査で全国平均を下回っていた「関心・意欲・態度」も、今回は大きく上回る結果となった。

ウ 課題解決のための手だて

- ・1 学年 文法事項や語彙が増えるにつれて英語の学力が上がっていくよう、様々な活動を授業に取り入れる。

リスニング力を定着させるよう、意識的に英語を聞かせる活動を続けていく。

- ・2 学年 「聞く」「話す」「読む」「書く」の 4 技能の活動をバランスよく授業に取り入れ、単語テスト等をこまめに行い、語彙力を更に身に付けさせる。

生徒一人ひとりに細やかに目を配りながら、生徒が授業に意欲的に参加できるような課題の提示を工夫する。

- ・3 学年 学年が上がるにつれ、結果がよくなってきているので、今までの指導を継続させていくことがよいと考えている。特に「表現の能力」で好結果を得ることができたのは、各単元・各授業でこまめに英文を書く練習を続けてきた成果である。

「リスニング（会話内容）」や「条件作文」の問題の正答率が他に比べてよくなかったのが、意識的に授業に取り入れる。

さらに今までより難しく長い英文の読解に取り組んだり長い文を書かせたりするなど、より高度な内容にも挑戦させる。また、「話す」活動も多く取り入れていき、総合的な英語の力を身に付けさせる。

(8) 平成 23 年度 学力調査から授業改善へ

ア 学力調査の推移

・現 1 学年 本校(全国平均)

5 月の調査時点では、入学直後で、英語の学習活動を行っていないために、調査は行っていない。

・現 2 学年 本校(全国平均)

観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
H23 年 5 月 学力調査	83.1%(69.7%)	73.3%(56.9%)	87.5%(78.0%)	79.6%(70.0%)
H23 年 1 月 学力調査	79.9%(72.1%)	77.4%(62.9%)	86.1%(79.0%)	87.0%(72.0%)
H22 年 6 月 学力調査*				

・現 3 学年 本校(全国平均)

観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
H23 年 5 月 学力調査	70.0%(61.3%)	55.3%(50.0%)	79.4%(68.3%)	68.3%(60.5%)
H22 年 6 月 学力調査	79.9%(77.5%)	67.0%(51.9%)	85.2%(84.7%)	75.2%(65.0%)
H21 年 4 月 学力調査*				

* 4 月の調査時点では、入学直後で、英語の学習活動を行っていないため、調査していない。

イ 結果分析と考察・課題

- ・ 2 学年 4 つの観点において、期待正答率を上回る結果となった。「関心・意欲・態度」「表現の能力」「理解の能力」に関しては学習の成果がよく表れているようである。

「知識・理解」の観点に関して、数字上は期待正答率を若干上回っているものの、他と比較すると今後の課題が内在している結果となった。

- ・ 3 学年 4 つのすべての観点において、期待正答率を大きく上回った。特に今年度は「理解の能力」において 11 ポイント上回った。毎時間のように行っているリスニングテストや、音読練習の成果が表れた。会話文や長文の読解も概ねできているのは、生徒の語彙力の増加もあるので、単語テストや今後も継続する。

「書くこと」の練習を授業の最後に意識的に取り入れているので、生徒は抵抗なく、条件英作文に取り組める。表現の能力を育成するためには、継続的な「書くこと」の活動が必要である。

ウ 課題解決のための手だて

- ・ 2 学年 好結果を得られた 3 つの観点に関しては、今後も授業の中に「表現」「理解」に係る活動ができるだけ取り入れ、継続的・総合的に指導していく。

「知識・理解」については、単語コンテストや単語の活用テストなどを実施し、語彙力を高める指導をする。

- ・ 3 学年 今年度も好結果を得られたので、今後も 4 技能の活動をバランスよく授業に取り入れることを継続しながら、総合的な英語力を身に付けさせ、三年間の英語教育の集大成を図る。

すべての生徒が語彙力を更に高めるために、生徒のスペルミスなどこまめに直し、ワークシートやワードクイズを定期的に行う。

(9) 平成 22 年度 研究の成果と課題

ア 「学力調査」について

- ・ 1 学年 全ての観点でよい結果を得ることができた。基本的に現在の授業を継続・発展させていく。特に「聞くこと」「書くこと」の指導を重点的に行う。

英語を苦手とする生徒についても、家庭学習の課題を出したり補習授業を行ったりしながら、基礎的な内容を反復して学習させることができた。

- ・ 2 学年 「表現の能力」について、今年度も昨年度に引き続き、単語テストや授業のワークシートなどでスペルチェックを細かく行った結果、基本文の定着率は上がってきた。
「理解の能力」に関しては、授業で定期的に取り入れているリスニングテストを引き続き行いながら、単元ごとに T F テストや Q & A クイズなど、理解力を問う問題を用いた。
- ・ 3 学年 学力調査の結果ではどの観点についてもよい結果が得られたので、基本的にそれまでの授業形式を継続して続けてきた。
リスニングも C D 教材などを用いて定期的に取り入れた。また、英作文についても、まとまった文を書く練習など様々な形で行った。

イ 「授業評価」について

- ・ 1 学年 「授業の進度が速い」という意見があったが、1 年の指導内容を計画通り進めてきた。遅れ気味の生徒には家庭での復習課題を出すなどして補った。
授業の自己評価カード等を利用したり、活動の目的を生徒に明確に伝えたりして、生徒がより意欲的に取り組めるような工夫をした。
- ・ 2 学年 昨年度に引き続き、「授業が充実している、楽しい」と感じている生徒も多く、意欲的に授業を受けている。
反面、2 年生になり授業の内容が難易度を増したこともあり、内容の理解が不十分な生徒もいるので、今後も効果的に教材を提示し、理解度を深める。
友達同士で学び合う形式も定着しているので、さらに丁寧に指導する。
- ・ 3 学年 全体的により評価が得られたので、それまでの授業スタイルを継続してきた。生徒同士で対話をしたり、挙手をして発言させたりする場面も意識的に多く取り入れた。
教材についても、生徒が分かりやすく取り組めるように、基礎的な内容から発展的な内容まで様々なレベルのものを取り入れるよう意識した。

ウ 今後の課題

- ・ 1 学年 授業中にコミュニケーション活動などの時間を多く設定することで、現在、自然な英語が身についている。
英語での発表力や表現力を 3 年間維持させて「英語を運用する」力を基礎から定着させる。
4 技能をバランスよく取り入れながら、「書くこと」についても丁寧な指導を続ける。
単語テストやスピーキングコンテストなど語彙を増やしながら、「活用できる生きた英語でコミュニケーションを操れる国際人」の育成に努める。
- ・ 2 学年 「単語力を上げよう」「まとまった文を読めるようにしよう」という目標を継続して掲げ、今後の英語活動を行っていく。来年度は長文読解などを通して、英文の内容を理解できる練習を行っていく。
2 年間で積み上げてきた活動的な授業を来年度も継続することで 3 年間の英語教育の集大成としたい。